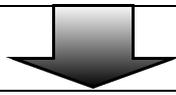


**Q1：小学校における英語活動のねらいは何ですか？**

- A：**学習指導要領の示す内容から、基本的には次の2つのねらいが考えられます。  
その際に大切にしたいことは、地域や学校の実態を踏まえ、英語活動を通してどのような子どもを育てるのかを各学校で明確にすることです。したがって、その考え方によってどの部分に重点を置くのかは、各学校によって違ってくることもあります。

国際理解に関する学習の一環としての外国語会話等を行うときは、学校の実態等に応じ、児童が外国語に触れたり、外国の生活や文化などに慣れ親しんだりするなど小学校段階にふさわしい体験的な学習が行われるようにすること。

(小学校学習指導要領第1章総則 第3 総合的な学習の時間の取扱い6 (5))



**ねらい1 外国語に親しみ、コミュニケーションへの関心・意欲を育成すること**

- (1) 外国語に慣れ親しむ機会をもたせる。
- (2) コミュニケーションをしようとする関心・意欲・態度を育てる。

《参考》

- ・「国際理解教育の一環として、「総合的な学習の時間」を活用したり、特別活動などの時間において、学校や地域の実態等に応じて、子供たちに外国語、例えば英会話等に触れる機会や、外国の生活・文化などに慣れ親しむ機会を持たせることができるようにすることが適当である。」  
(第15期中央教育審議会答申「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」  
－(小学校における外国語教育の扱い) (平成8年7月19日)
- ・「言語習得を主な目的とするのではなく、興味・関心や意欲の育成をねらうことが重要である。」 (小学校英語活動実践の手引き 1章 2 (1))

**ねらい2 日本の文化・外国の文化に慣れ親しみ、興味・関心を高めること**

- (1) 外国の文化を知ることを通して日本の文化を知る。
- (2) 広い視野をもち、異文化を理解するとともに、これを尊重する態度や異なる文化をもった人々と共に生きていく資質や能力を育成する。
- (3) 外国の生活や文化などに慣れ親しんだりする。

《参考》

- ・「広い視野を持ち、異文化を理解するとともに、これを尊重する態度や異なる文化をもった人々と共に生きていく資質や能力の育成を図ること。」  
(第15期中央教育審議会答申「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」)
- ・「国際理解は異文化を知ることだけにとどまらず、異文化を知ることを通して自国の文化を知り、・・・」 (小学校英語活動実践の手引き 1章 1 (1))